

みる つくる がたる

千葉県立美術館報

VOL. 16 NO. 4

(通巻63号)

平成2年2月1日発行

編集・発行人 竹内一雄

〒260

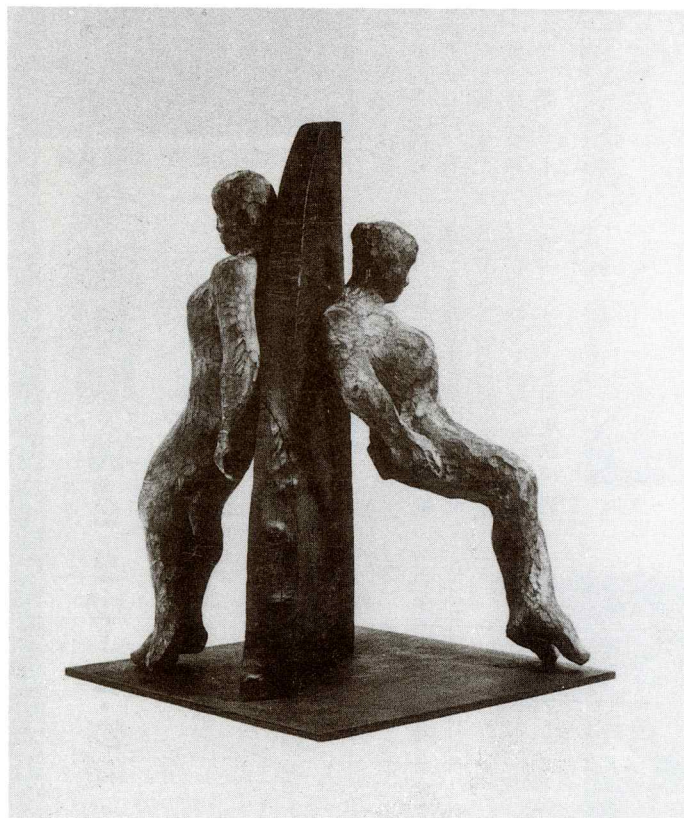
千葉市中央港1丁目10番1号

☎0472-42-8311 (代表)

第四回 現代日本具象彫刻展より

大賞「時の流れに……(相)」

南部 治夫



制作意図について

南部 治夫

「人の心の様々な情景を男と女が一つの壁に背中合わせに配することによって、象徴的に表わし、大きな時間の流れの中で繰り返される人間のドラマのはかなさ、せつなさをみたいなものを表現してみました。」

作家略歴

昭和33年富山県出身。昭和55年武蔵野美術大学彫刻学科卒業。翌56年文化庁芸術家国内研修員に選ばれる。

昭和55年新制作展初出品、以降出品を続け、昭和61年同展新作家賞受賞。昭和59年富山県展大賞受賞。昭和60・62年神戸具象彫刻大賞展出品。

昭和62・64年現代日本具象彫刻展出品。昭和63年富山の美術(富山県立近代美術館)に招待出品。昭和64年第4回国民文化祭さいたま89彫刻プロムナード出品設置。

現在、新制作協会協友。埼玉県所沢市在住

みる
(展覧会)

企画展

第四回現代日本具象彫刻展 '90.2.2(金)~2.25(日)

過去最高、一二三点が応募

現代日本具象彫刻展は、過去3回までは、県が都市公園として建設中の「青葉の森公園」に彫刻を設置することを目的として開催してきましたが、今回からは、美術館主催による展覧会で、具象彫刻作家に発表の場を提供するとともに、現代彫刻の動向を知り、かつ、本県の美術文化の振興に寄与し、優れた作品を通して心のうらおいと豊かさを得る機会として開催します。

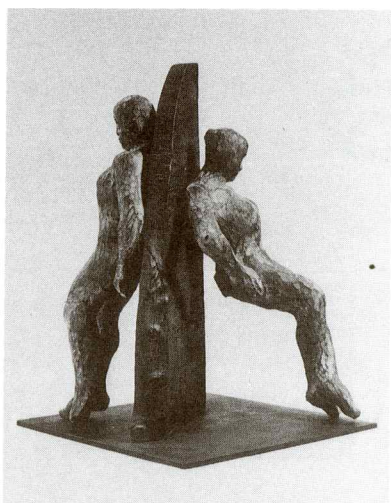
第四回現代日本具象彫刻展の公募作品は、平成元年12月16日、17日に搬入され、18都府県、国外から前回は上回る123点の応募がありました。審査員の方々(小川正隆、嘉門安雄、弦田平八郎、富山秀男、中村傳三郎、本間正義、三木多聞)による審査の結果、大賞1点、優秀賞2点、入選56点が選定されました。

○大賞 南部治夫(埼玉)
○優秀賞 辻志郎(富山)
零駒無蔵(香川)

○入選(50音順)
朝倉二美(千葉)、阿部昌義(東京)、天野恵子(東京)、石塚明夫(東京)、石橋亘(千葉)、イソグヒテノリ(大阪)、市村緑郎(埼玉)、井上智宏(東京)、岩坂登(千葉)、海老根美奈子(茨城)、大城章二(東京)、大塚則子(東京)、大村富彦(東京)、

岡本鏡二(茨城)、岡本参千峯(埼玉)、奥田秀樹(広島)、押元信幸(東京)、加藤可奈衛(千葉)、後藤敏伸(富山)、小林芳雄(埼玉)、酒井良(千葉)、佐藤晃(東京)、佐藤健次郎(埼玉)、サンゲコーサク(香川)、椎名良一(千葉)、杉山仁(東京)、鈴木宏幸(埼玉)、清家悟(東京)、関正司(千葉)、高田大(神奈川)、竹村芳樹

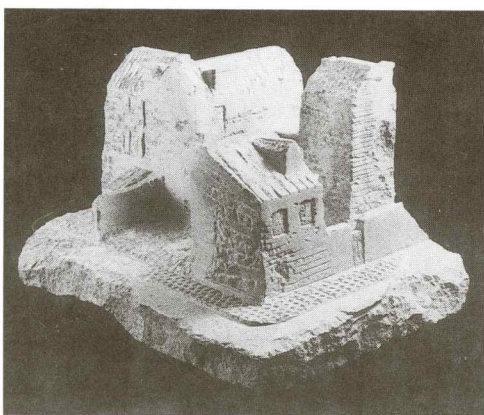
(茨城)、田中江里(東京)、田中充樹(香川)、玉野勢三(京都)、辻忍(神奈川)、外岡秀樹(大阪)、中嶋登茂美(愛知)、長嶋栄次(千葉)、中野滋(神奈川)、榎原北悠(アメリカ)、西巻一彦(神奈川)、二藤規朗(埼玉)、野口信夫(埼玉)、長谷川修三(群馬)、服部八美(岐阜)、浜野喜甫(千葉)、番浦有爾(京都)、藤巻秀正(新潟)、本田貴侶(埼玉)、松本雄治(神奈川)、三上祥司(新潟)、三木勝(神奈川)、溝口清久(和歌山)、宮本浩司(東京)、矢貫伸(東京)、山本直敬(神奈川)。



大賞 南部治夫「時の流れに...(相)」



優秀賞 辻志郎「Space time」



優秀賞 零駒 無蔵「過ぎし日のアパート」

新収蔵作品紹介

平成元年十一月一日から、平成二年一月三十一日までに収蔵された作品は次のとおりです。

購入

〔日本画〕

五十嵐幹作

「紅粧」

「かくれんぼ」

（紙本一九七五）
（紙本一九三三）



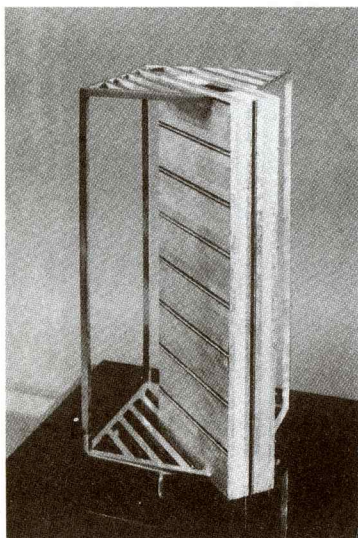
五十嵐幹 「かくれんぼ」

〔工芸〕

宮田宏平作

「生命の透間風」

（蠟型鋳白銅一九六三）



宮田宏平 「生命の透間風」



五十嵐幹 「紅粧」

五十嵐幹（一九三三）
千葉市に生まれる。千葉商業学校を卒業後、日本画家山川秀峰に師事。第四回新文展に初入選、青衿会を主に活躍。県美術会理事等を歴任。県教育文化功労賞などを受賞。

宮田宏平（一九六三）
新潟県に生まれる。伝統的な蠟型鋳造技術を継承しつつ、現代感覚豊かな作風で知られる。本作品は、昭和五十七年日本現代工芸美術展で内閣総理大臣賞を受賞したものである。日展審査員、評議員、現代工芸美術家協会理事等歴任。

基金取得

〔洋画〕

ドービニー作

「ヴァルモンドワの小川」

（油彩一八四七）

ディアズ作

「森の中の農婦」

（油彩一八六六）

エミール・ジャック作

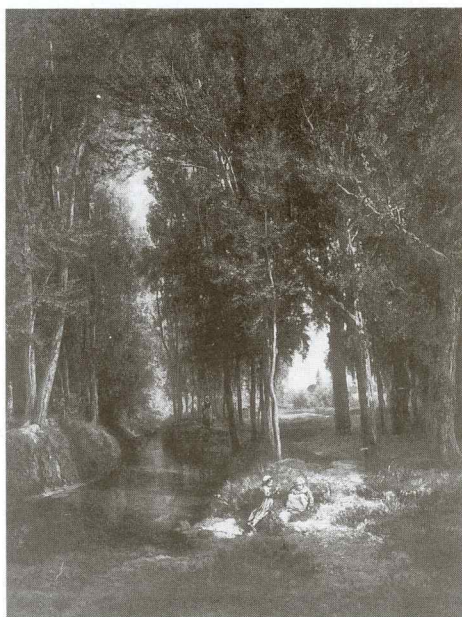
「森の中」

（油彩一八七二）

テオドル・ルソー作

「バルビゾン農場の」

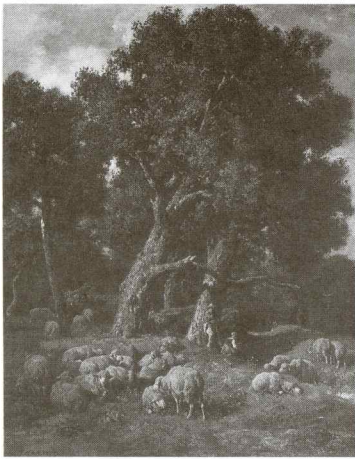
（油彩）



ドービニー「ヴァルモンドワの小川」

フォンタネージ作
「川辺の二頭の牛」（油彩）
「羊飼いの少女」（油彩）

シャルル・フランソワ・ドービニー（一八七〇～一八七九）
フランス、パリに生まれる。一八三八年ドラローシュのアトリエに入門、同年よりサロンに出品。一八五二年以降バルビゾン派の画家達と交流し、強い影響を受ける。オワーズ川の小舟をアトリエにして、風景画を描き、後の印象派に影響を与えた。

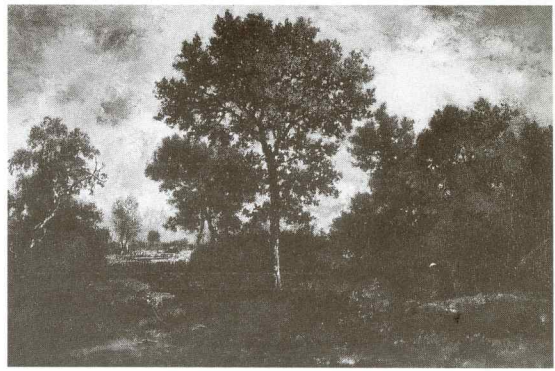


ジャック 「森の中」

フランス、パリに生まれる。オランダ風景画を学び、早くから戸外で風景画を制作した。
一八三六年サロン落

ナルシス・ヴィルジール・ディアズ（一八七〇～一八七六）
フランス、ボルドーに生まれる。はじめ陶器の絵付工と

テオドール・ルソー（一八二一～一八六七）
フランス、パリに生まれる。はじめ版画を手がけるが一八四六年頃より油彩画を始め、バルビゾン



ディアズ 「森の中の農婦」

して活躍するが、一八三一年サロンに初入選する。バルビゾン派のテオドール・ルソーとともに数多くの風景画を描き、ニッフやヴィーナスなどを自由に描き込んだ作風で知られる。

シャルル・ジャック（一八三三～一八九四）
フランス、パリに

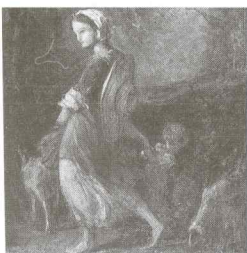


ルソー 「バルビゾンの農場」

選後はフォンテンブローに移住、バルビゾン派の起源をつくる。また、同時代の風景画家の中心的存在となり、最も早い外光派の一人で印象主義の先駆者でもある。

アントニオ・フォンタネージ（一八六〇～一八八三）
イタリア、エミリアに生ま

れる。レッジオ美術学校でミゲッチに学ぶ。イタリア官学派の伝統を受け継ぐ画風であるが、バルビゾン派の影響を受け、イギリス風景画を研究。工部美術学校の教師として来日し、浅井忠、松岡寿らに本格的な西洋美術を指導した。



フォンタネージ 「羊飼いの少女」(左) 「川辺の二頭の牛」(右)



三橋記念館会場

県立美術館収蔵作品を中心に巡回展示した第13回千葉県移動美術館には、各地域からたくさんの方の観覧があり、好評のうちに終了しました。

会場を訪れ、アンケートにご協力いただいたものの中からその一部をここにご紹介します。

○身近で、気軽に芸術に親しむ機会がもっと増えることを期待しています。今後も計画的に全県に移動していただきたいと考えます。
(67才・船橋市)

○後藤純男さんの作品に強く引かれました。コンピュータプログラマーの仕事で人工的なものばかり(数学的)見て

第13回 千葉県移動美術館のアンケートから 会場 鎌ヶ谷市三橋記念館・酒々井町中央公民館

だなぁと思った。その人の感じた事や思っている事が絵をとおして、私の心にじんじんと何か感じられた。
(12才・鎌ヶ谷市)

○千葉が生んだ数々の作家の作品を前にとても感動し、又大切に保存され、小さな街にも、ひとときの芸術を楽しみました。次回を楽しみにしています。
(41才・鎌ヶ谷市)

○明治時代に描かれた絵がとてもきれいで信じられない。
(41才・鎌ヶ谷市)

○こわい絵やたのしい絵がいっぱいありました。よくわからないうちにもあった。
(71才・酒々井町)

○コンパクトながら、秀品を拝見できて、嬉しい限りです。館外展示は、施設等大変ですが、今後も精力的に継続してください。
(14才・酒々井町)

○表現する事のむつかしさと美しさに感動した。
(49才・酒々井町)

いるので感動しました。また見る時間を作りたいと思います。
(27才・鎌ヶ谷市)

○絵は自由だから、描く人によつてずいぶんちがってくる。わたしもきれいに描けるようにいっぱい練習しようと思っています。
(11才)

○今まで「現実にある物」しか描いたりしなかったけれど、この作品を見て、心の中で感じたものも描けるの



酒々井町中央公民館

展示室利用の調整会議開催 と今後の課題

平成元年12月21日「平成2年度団体展展示室利用に伴う調整会議」が開催されました。美術館も15周年を迎え、この間、本館を会場とする美術団体の展覧会の開催は、年毎に増加の一途を辿っています。その盛況は、美術に対する県民の意識の広がり、参加する機会の増加等かと考えると、喜ばしいことですが、反面、本来のミュージアム活動の面とのかねあいが課題となつてきています。

平成元年度の展示室利用団体数は87団体を数え、展示室の可動率は百パーセントに近い状況にあります。新規に使用を希望する団体の要求には応じられなくなつてきています。展示室利用団体の量的な増大に対しては、現在二週間以上開催している団体の会期の短縮や、新規団体への機会開放には、申込順などの方法等々、解決に向けて種々の提案がなされています。

ところで、本館における団体の展示室の使用は、単に空いている展示室を提供するという意味合いのものではなく、本館を会場とする美術団体展は、個々の作家の作品の発表の場であると同時に、全体に質の高い展覧会であることが要求されます。実際に、平成元年度における団体展を見ても、その多くは意欲に溢れた、充実した作品の発表の場であったといえます。しかし、一方では、マンネリ化を招き、活気のない展覧会を情性的に開催している団体がいくつか見られたことは非常に残念なことです。

本館における美術団体への会場貸与に際しては、地域文化の振興、助成を考へて使用を許可しているところですが、展示室が年間を通してフル回転の状態にある今後については、展覧会そのものの意義、内容を充分検討して使用を許可していかなければならないでしょう。例えば、開催趣旨が明確化されているか否か、展示面積に対して作品点数は適正であるか否か、見せるための展示の工夫が行き届いているかどうか、会期中の利用の仕方はどうかなど、具体的な評価基準のもとに審査を加えて、団体の数量、会期等調整を図っていくことなどが必要でしょう。

かたる・つくる

(美術を語る会・実技講座等)

美術を語る会

○第10回

日時 2月10日(土) 2時～

主題 私の制作について

講師 南部治夫(彫刻家・第4回現代日本具象彫刻展大賞受賞者)

会場 研修室

対象 一般30人

聴講料 無料

美術館実技講座

□デッサン講座

期日 2月14日・18日

20日・25日

27日・3月3日

時間 午前10時～午後4時

内容 石こうデッサン

費用 無料

※当日受付けます。ただし参加希望者が多数の場合は、先着順で決定しますのでご了承ください。

※持参用具、スケッチブック、筆記用具、コンテ、木炭、消しパンなど(イーゼル・カルトンは美術館にあります)。

情報資料室から

―新着図書のお知らせ―

◇『ロダン』

モニック・ローラン著

近代彫刻の巨匠ロダンの生涯を新しく撮影された豊富な写真資料によって紹介。著者はロダン美術館前館長でロダン研究の第一人者。

◇『マリイ・ローランサン

八三・九芸油彩作品総目録』

ダニエル・マルシェツォー編著

日本にフアンの多いフランスの代表的な女流作家マリイ・ローランサン

の作品総目録。この他、代表作品のカラー図版を多数紹介した『マリイ・ローランサン』、著者フロラ・グルーに宛てた未公開書簡をもとに綴られた伝記『マリイ・ローランサン』を購入。

◇『昭和画壇の巨匠たち』

遠山 孝 著

美術記者であった著者と横山大観、竹内栖鳳、梅原龍三郎ら昭和画壇の巨匠58人との交友を綴った記録。

他に美術史を考えるものとして、瀬木慎一著『異貌の美術史』、北沢憲昭著『眼の神殿』があります。いずれも斬新な切り口で既成の解釈、評価を再検討し、興味深い著作です。

◇『ニューヨーク午前0時 美術館は眠らない。』

岩淵潤子 著

企業や個人からの助成を受け運営されているアメリカの美術館界の構造を体験的に紹介。

◇『迷走するモジリアニの原作』

速水雄二 著

以上その他、『世界美術大事典第4・5巻』、『講座20世紀の芸術第3・6巻』、『石井鶴三全集第1・11・12別巻I』が入りました。

皆様の御利用をおまちしています。

◆火・金12時30分～4時30分 閲覧のみ。

日誌抄

11・18

特別展「ドイツ・ロマン派19世紀絵画展」

11・22

第13回千葉県移動美術館(会場 鎌ヶ谷市三橋記念館)

11・25

第7回美術を語る会(講師 中島幹夫氏)

12・2

第8回美術を語る会(講師 大原秀之氏)

12・7

第13回千葉県移動美術館展(会場 酒々井町中央公民館)

12・9

第3回美術館講演会(講師 坂本 満氏)

12・16

公募展 第4回現代日本具象彫刻展搬入受付開始(～17)

12・22

第4回現代日本具象彫刻展審査会、入選作品59点

1・15

彫刻展入選者発表

1・20

第9回美術を語る会(講師 増田陽一郎氏)

2・2

第4回現代日本具象彫刻展始まる(～25)

3月5日(月)～3月31日(土)

空調施設工事のため

休館します。

休館します。

休館します。